



ルヴァン便り No.12  
2020.7

## 西村伊作の詩いた種 個性の開花 II ポスト伊作世代

1921年に開校した文化学院の教育方針は、既存の芸術の枠をひろげ自由で美しいものを追求するものでありました。創立者西村伊作自身が表現・創造性・美の基準など当時の芸術の枠を超えたいと思い、我が子にも自由で創造的な教育をする過程で、理想の芸術教育を目指した文化学院の創立に至ったのは当然の流れでした。伊作の詩いた種は、文化学院で学んだ人達の中で様々な個性となり開花しました。

アヤ、久二、ユリ、八知—文化学院で学んでから海外で見聞をひろげてきた伊作の子供たちと、長岡輝子や村井正誠などの卒業生たちは教師として学院にもどりそれぞれの得意分野で伊作と文化学院を支えるようになります。1963年、創立から文化学院の原動力であり精神的支柱であった西村伊作が亡くなります。創立メンバーであった与謝野夫妻や石井柏亭もすでに亡く、文化学院にとって一つの時代が終わるかのように見えました。しかし創立者たちの意志と理念を引き継いだ伊作の子供たちと卒業生たちにより、文学、建築、デザイン、美術、陶芸など多様に領域を超えて自由で「文化学院らしい」教育は発展・熟成していきました。

今年の企画展では、昭和後期から平成の文化学院で学び、美術、デザイン、工芸、陶芸、文芸の分野で表現活動をしている作家の作品を展示しています。ポスト伊作世代の彼らの作品の中にも伊作の詩いた種が開花していることをご覧ください。



「きのこの下で」 広瀬ひかり



「漢方小説」中島たい子



「桜簪」いづみけん



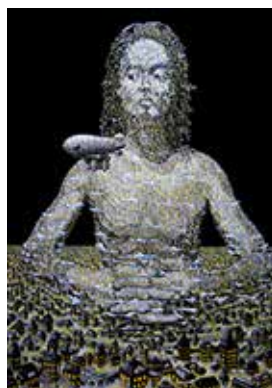
「飛晶陶」森田高正



「白器 宇宙への階段」和田的



「青瓷壺」志賀暁吉



「自画像としての街」柿沼宏樹



「自然 第一」小林智

## 西村伊作旅行日記(11)

ドイツ・ブレーメンから大西洋を渡りニューヨーク、さらにボストンへ

西村伊作は1909(明治42)年3月27日、25歳の時、横浜からドイツの商船で欧州を經由して米国に向けて旅立った。船はマラッカ海峡、スエズ運河を経てナポリに到着。その後は鉄道でイタリア、スイス、フランスを巡り、ドーバー海峡を渡り5月17日、ロンドンに到着した。英国ではロンドンやオックスフォードの見物の他、小学校なども見学した。その後オランダ、ドイツを巡りモダンデザインの建築に触れ印象深かったようである。そしていよいよ大西洋を渡り最終目的地米国へ向かった。なお、伊作が大西洋を渡った3年後、よく知られるタイタニックの海難が発生したのだった。

本文はできる限り日記そのままを紹介することに努めたが、文中には句読点はなく、読みづらいため西山の判断で新たに書き加えた。また、○は判読が困難な文字である。

### ● 6/1

ロイドの特別列車が八時半頃ブレーメンを発した。そしてブレイムヘーブンと云ふ港迄来て船のそばに汽車が付いた。船はクロンプリンツエシエンセシルといふ名である。ロイド汽船中最大もの一つである。客室が



甚多い。食堂も廣く五百何十人とかの椅子がある。無線電話もありカフェがあり、凡て運河通いの独逸船を四五倍大きくした様なものである。ロイドの船の経験がある故勝手がよく分かつて初めから気らくである。船室は食堂から四階内の後ろの方で一人で二室である故気らくである。食事は料理屋式で丸い卓子が多くあつて何時でも勝手に行つて食べる様にしてある。給仕も中々親切丁寧である。例の如く楽隊がある。あまり速度が早い故、船がぶるぶるふるへる。乗客はあまり多くない。今は米国から来るのが多いのである。汽関

室へ入って汽関の動くのを見た。その大きな事。又四本の煙突が各○一丈五尺位な大きさ。船のともに立つてプロペラの起す水の泡を見るのがまことに壯観である。

### ● 6/2

朝サウザンプトンへ着いた。雨天故町を見に行かなかつた。ここは立派な港で屯大船も難なく横付けになる。向ふに風景よしと称せらるゝワイト島が見よい所である。十二時に出帆。雨ふり寒い。四時頃フランスのチエルボラーへはいつて乗客をのせ直ちに出港。風烈しく波もあり寒いが船は少しもゆるる様な事はない。

### ● 6/3

波が荒く船が上下する故一日床中に居た。給仕に食物をもつて来させて食べた。たく山もつて来てくれる。雛の丸焼などもつて来きた。料理やならば三円位とられるのを一食にもつて来る。

### ● 6/4

今日も波のうねりが大きい為めに天気がよくても船が揺れる○○○○にねころんで一日をすごした。一人ぼつねんとして居るので或米国の若い男が話しをして来た。



伊作が乗船したロイドの豪華客船  
「クロンプリンツエシンセシル」  
(北ドイツロイドのポスターより)

● 6/5

大分船の動揺になれて来た。もう食堂へかゝさず出る。

● 6/6

朝から霧がかゝつて船は速力をゆるめて走つた。そのかほり波はしづかになつた。船の中には日本へ行つた事のある人々が数人ある。今日はよいお天気です、などと云ふやつもある。十日程日本に滞在して何もかも知つた様にふく男もある。夕方甲板で大きな声で日本の歌をうたつて見た。東洋通ひの船より大西洋の方が人々が平民的で学ぶつて居ない。アツサリして居る。毎日出版する新報はマルコニー無線電信で受取つた電報をのせてあるが、つまらん事計りかいて一向によむに値せぬ。

● 6/7

波は静になつたが、また霧がある。人々と話をして暮す。

● 6/8

朝起きるともう陸地が見へて居た。十一時にニューヨークの川へ入り〇〇〇〇の棧橋へ付いた。棧橋と云ふても〇である。大きな家のそばへ横付けになつた。

それより前日本人である故と云て移民官の前へ出頭して旅券を見せるやら色々な事を申上げた。但し移民官は大に気の毒がつて居た故大に虫が下つた。

上陸して税関で荷をしらべ船中の若い衆四人が一つの車へのつてチエルシアと云ふ宿へ付いた。

昼食の後一人でぶら付きまはつた。家が大きい高いと云ふても来て見ればさほどにも感ぜぬ。高いのや低いのがむちやくちやに交つて居るのはあまり立派でない。中央公園は立派に出来て居る。店前の硝子の中で〇の人が居てだまつて人形の様に商品を見せて居るのが面白い。夜のブロードウエーは廣告電気できれいである。高架鉄道はやかましい。電車は大きくて甚だよい。

● 6/9

朝から雨がふつて見物が思ふ様に出来なかつた。先づバッテリーへ行つて高架鉄道で水族館を見、それからブロードウエー北へぬれながら歩いてブルクリン橋迄来電車で橋を往復して見た成ほど大きな橋である。それから有名なデパートメントストア ワナメーカーを見、一寸活動写真をのぞきぬれながら宿へかへつた。宿のむかへの Y.M.C.A を一寸みた。

夕五時に船でボストンへ向ふ。此船は三千噸計りの船でハーバードと云ふ綺麗な船である。一等客室三百何十あり一千人の客を乗せる。中々しやれた船であつた。雨ふり風烈しいが波は小さかつた。

(西山修司)

## 2020年度 ルヴァン美術館のご案内

7月2日(木)～11月3日(火) 10:00～17:00  
水曜日休館(7月15日～9月15日は無休)

### ローズフェスティバル

午前10:00～17:00

6月13日(土)～7月5日(日)

ルヴァン美術館の庭のバラが見どころです。期間中カフェのご利用は100円引きになります。

### サマーコンサート

①ボサノバ・サパトス/木村 純・三四郎(第17回)

8月15日(土)

演奏者:木村純(ギター) 三四郎(サクソ)

開場:18:00 開演:18:30

入場料: 一般:3,000円 中学生以下:1,500円 要予約

ビュッフェ(17:00～):先着30名要予約 1,800円

②寺田悦子・渡邊規久雄/四手連弾ピアノコンサート(第3回)

8月22日(土)

演奏者:渡邊規久雄 寺田悦子(ピアノ)

開場:18:00 開演:18:30

入場料: 一般:4,000円 中学生以下:2,000円 要予約

ビュッフェ込み入場料:先着30名要予約 一般:6,000円 中学生以下:3,000円

※コンサート開催日のみ、美術館は16:00に閉館致します。

### 秋のアートフェスティバル

10:00～17:00 スケッチ大会開催 入館無料

10月11日(日)

### アトリエルヴァンのワークショップ

#### 陶芸教室

①午前10:30～12:00/午後14:00～15:30 講師:森田高正(陶芸家 アトリエ陶のもり) 9月21日(月・祝)・22日(火・祝)

内容:9月21日(月)スリップウェア技法でお皿の模様をつける 参加料:3,500円(材料費含)

9月22日(火)つけ高台のある小鉢をつくる 参加料:2,500円(材料費含)

②午前10:30～12:00/午後14:00～15:30 講師:森田高正(陶芸家 アトリエ陶のもり) 10月3日(土)・4日(日)

内容:10月3日(土)玉づくり成形で小物をつくる 参加料:2,500円(材料費含)

10月4日(日)たたら成形で小物をつくる 参加料:2,500円(材料費含)

#### ウィンターオーナメント作り

午前10:30～12:00/午後14:00～15:30 講師:大谷香(色彩の工房主宰)

10月10日(土)

内容:スワッグをつくろう 参加料:3,000円(材料費含)

※コンサート・イベント・ワークショップは開催予定が変更になる場合がございます。ご了承下さい。

☆カフェテラス Cafe Le Vent、ミュージアムショップ Le Vent は、常時ご利用いただけます。

ルヴァン美術館: 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢長倉 957-10 Tel.:0267-46-1911 Fax.:0267-46-1910

東京事務所: 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-14 Tel.&Fax.:03-3401-8896 <https://www.levent.or.jp>